

ベネズエラ

豪雨被災者救おう

派遣経験者
ら募金活動

「AMD A」に205万円寄付

ベネズエラの豪雨災害被

たい」と話している。

災者を救おうと、かつて国際協力事業団で同国に派遣されていた技術者らでつくる「ベネズエラ派遣JICA専門家会」が寄付を募り、二百五万六千四百八円を、現地で医療救援活動を実施した国連NGO「AMD A」に贈った。募金は四月末まで続け、第二次分としてAMD Aに渡す予定で、専門家会の竹内洋市会長は「二日間で一年分の雨が降り、二十世紀最大の豪雨災害とも言われている。」

ベネズエラでは昨年十二月十五日から十六日にかけて、豪雨により川のはんらんや山崩れ、土石流が発生。海岸線約千キロに沿って、倒壊家屋十五万戸、死者三万人、被災者五十万人の被害が出た。

その割には日本ではあまり知られておらず、実情を知らせて広く協力を呼び掛け

このニュースを聞いた同専門家会幹部らが昨年末、「援助をしたい」と、寄付を募ることに。「お金の行き先がはっきり分かるころに渡したい」と寄付先を探していたところ、発生直後に現地入りして医療活動を行ったAMD Aの存在を知った。一九七九年から八

二年までの三年間派遣され、ベネズエラの政府機関に勤めていた竹内会長は「ベネズエラの首都カラカスは、とても近代的な町。災害はそこからわずか数十キロの場所で起きた。ぜひ現状を知ってほしい」と呼び掛けた。

義援金は「ベネズエラ派遣JICA専門家会」（郵便振替00170-9-145066）へ。